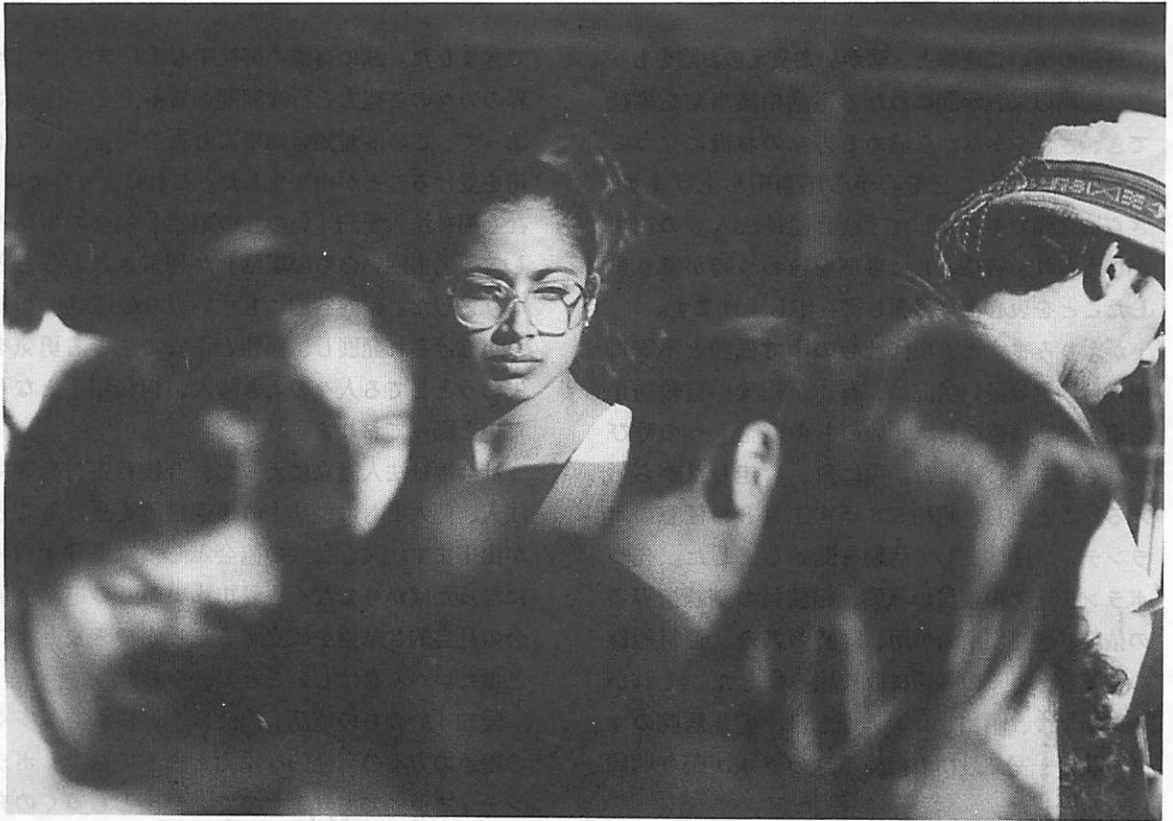




名古屋いのちの電話

1989年度 事業報告



あなたの知らない

知らないところに

いろいろな人の

人生がある

あなたの人生が

かけがえないように

あなたの知らない人生も

かけがえない

人を愛するということは

知らない人生を知ることだ

遠山紀元 詩



社会福祉法人設立に際して 御礼、ご挨拶

社会福祉法人、愛知「いのちの電話」協会
理事長 相馬 信夫

皆様の深いご理解と、暖かいお支えのお陰もって、開局以来五年間にわたる電話相談事業を継続でき、ささやかながら悩める方々のお役に立つことができましたことを心から感謝申し上げます。さらに念願でありました「社会福祉法人」の認可が与えられ、皆様と共に喜びを味わう時が参りましたことを衷心より感謝し御礼申し上げます。

かえりみますと、現代社会の中で孤独と不安に悩み自殺者の多い状況に、有志が相集い自殺防止対策を熱心に協議し、「いのちの電話」への呼びかけをして参りました。兎に角、“走りながら考える”こととし、昭和58年11月8日任意のボランティア団体として活動を開始しました。先づボランティア相談員の募集、相談員の訓練指導者の依頼、研修場所の借用、経費の調達、運営組織の充実等々多くの課題に取り組みました。それから一年半後、昭和60年7月1日、聖霊病院のマリア館の一室で最初の相談電話のベルが鳴り開局いたしました。

それ以来、ボランティア相談員の皆様はじめ、その養成訓練に当たって下さった先生方、維持運営の財政を支えて下さった、資金ボランティアとしての賛助会員、後援会員、寄付者、助成団体等多くの方々のご好意とご協力のおかげで今日に至りましたことは、まことに喜ばしく、理事、評議員、委員、職員一同心から感謝しております。

この事業の運営の安定と、さらなる発展のために、社会福祉法人格の取得は、開局後から強い願望でありました。この1・2年の間、財界の方々絶大な理解とご支援をいただき、基金の蓄積が

できました。誠に有難く御礼申し上げます。又各界の方々のご協力と行政期間のご好意とご指導によって、この度愛知県知事より社会福祉法人の認可を受けることが出来ました。これにより今後は、社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会の事業として「名古屋いのちの電話」が運営されることとなりました。県内各地にも「いのちの電話」の働きが広げられ発展し、孤独と不安で生きる勇気を失おうとしてる人々のよき隣人、相談相手になりたいと願っております。

社会福祉法人設立によって、今後は寄付金等に法人、個人ともに税法上の優遇措置を受けることが出来ます。又、私共の協会としては財政上有利になったばかりでなく、愛知「いのちの電話」協会の社会的な基盤を確立することができましたことはたいへん喜ばしいことであります。

愛知「いのちの電話」協会は、どこまでも多くの善意の方々の自発的な協力と創意に基づくボランティア運動でありますので、今後とも多くの有志の方々のご支援とご協力を心から期待しております。

最近の世界情勢の復権と共に日本の社会も色々困難な問題を抱えており、生命を守り、自殺を防止するための電話相談の必要性が増大しております。このためには、社会福祉法人として一層の充実と発展により、社会的責任を立派に果たしていきたいと存じます。

何卒、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

名古屋いのちの電話開局五周年
社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会設立
記念式・感謝会開催ご案内

理事長 相馬 信夫

木々の緑もあざやかなときとなりました。皆様のお支えのおかげをもちまして、開局より早くも五年、そして念願しておりました、社会福祉法人の認可もおり、名実ともに社会に認められ、責任ある団体として歩みはじめることとなりました。誠に有難く、心から御礼を申し上げます。つきましては、私共の「いのちの電話」が五周年を迎え、又法人認可をいただきましたのを機会に、記念の式とささやかな感謝の会を下記の様に開催し喜びを共にいたしたいと存じます。どうぞご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

日 時：1990年6月30日（土）午後2時～4時

場 所：王山会館

名古屋市千種区覚王山通8

電 話：762-3151

交 通：地下鉄池下駅下車東へ約100米

ご出席のご返事を同封ハガキにて6月20日までにお知らせ下されば誠に幸と存じます。
なお、この封筒を受け付けにお示し下されば幸いです。

-----名古屋いのちの電話開局五周年記念-----

第6回チャリティーコンサート

日 時：1990年7月17日（火）午後6：30（開場6：00）

場 所：カトリック五反城教会（地下鉄岩塚下車西北へ5分）

出 演：“森下治郎プラスアンサンブル”

入場料：前売2,000円 当日2,500円

前売りはプレイガイドへ

1989年度事業報告

皆様のご協力ご援助のおかげで1989年度も「いのちの電話」の活動を続けることができましたことを心から感謝申し上げます。ここに事業報告をさせていただきます。

1989年度の主な集会

理事会（法人設立委員会）	4回	相談員認定式	1回
理事会（社会福祉法人）	2回	公開講座（講師笠原嘉氏）	1回
評議員会（同上）	9回	フォーラム	1回
運営委員会	11回	ゴスペル、コンサート	1回
財務委員会	9回	自殺予防シンポジウム委員会	7回
基金委員会	3回	第5期相談員養成講座	22回
訓練委員会	11回	同上 一泊研修	1泊2日
相談員認定委員会	1回		

理事会報告

1989年度は、名古屋いのちの電話の運営基盤の安定のために念願としていた社会福祉法人申請認可のために努力した1年でした。

すでに「名古屋いのちの電話」の実績は4年半にわたって積み重ねられ、今年度末までに受信相談件数では約52,000件に達し、財政的には赤字ながらもほぼ収支のバランスを保つことができたのは誠に感謝でありました。

法人基金についてはこの年度も積み立てが進み、総額で2,034万円に達し、又、内外の強力なお支えをいただき道が開かれ、更に行政機関の方々の熱心なご指導により、認可・設立にいたりました。

従って理事会も任意団体として、又、法人設立委員会として数次にわたって開催され、熱心な審議の結果対応することができ、新しく、法人としての体制を整えることができました。

来年度は、法人として運営基盤の確立を推進すると共に、24時間体制の歩みを進めたいと思います。何卒一層のご支援をお願い申し上げます。

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会

理事長	相馬 信夫	監事	内河 恵一
理事	笠原 嘉		小山 勇
	木本 精之助		
	塚田 道生		
	豊田 壽子		
	長岡 利貞		
	西沢 信正		

評議員

奥村雅英、笠原嘉、川原恵、川原啓美、木本精之助、芝原慶次、相馬信夫、塚田道生、豊田壽子、中島緑、中堀仁四郎、長岡利貞、西沢信正、ピーター・チョーク、渡辺宣親

運営委員会報告

1989年度の運営委員会の働きは次の通りです。委員=12名。委員会の開催=12回。その他、特別行事の企画・実施のため3つの実行委員会を設置し、大勢の方に協力していただきました。

主な活動と内容

- 1、講演会の開催（6月20日）
笠原嘉氏を講師に、「生きがいの問題をめぐって」をテーマに、名古屋中央教会で開催した。225名の聴衆が集まり盛会であった。
- 2、第4回フォーラムの開催（7月1日）
事業報告の後、3グループに分かれて話し合った。フォーラムは総会に当たる集会として位置づけられているが、十分に趣旨が徹底していない点が反省点として出された。出された意見を具体化する様に、今後も検討して行く。参加者70名。
- 3、第5回チャリティ・コンサートの開催
9月21日に、ニューヨーク・ハーレム・ゴスペルクワイヤーを招き、五反城教会で開催した。満席の聴衆を感動させる素晴らしい演奏であった。出演者との折衝から運営のすべての面で、ボランティア精神がにじみ出た良いコンサートになった。
- 4、宗教者による街頭募金の実施（10月26日）
昨年に続き、第2回の仏教とキリスト教の宗教家、信徒による支援募金と、いのちの電話の広報活動を栄周辺で行った。募金額は20,525円だが、約40人の参加者があり、5,000枚のチラシを撒くことが出来たことは大きな収穫であった。
- 5、その他
法人認可への対応について検討した。また、本年の秋に名古屋で開催される、第15回自殺予防シンポジウムについて相談し、積極的に運営に参加することにした。

（運営委員長 塚田 道生）

訓練委員会報告

相談員養成講座：訓練委員会の主なる活動はあらたに活動に加わろうとされる相談員のための養成講座の計画実施である。今期も名古屋及び近郊在住の47名の専門家の先生方のご協力をえて、1989年の9月より第5期の訓練に入りました。第一課程受講者33名。現在、第二課程に進んでおられる方30名である。これより先に1988年4月より始まっていた第4期養成講座を終了して認定を受けられた方が29名あり、相談員として活動を開始されている。

相談員のための継続訓練：前年に引続き相談員を中心とした継続訓練を考える会で計画立案され、訓練委員会はその実施に全面的に参加した。これにも多くの有志専門家の協力をえている。

相談員の手引：開局以来5年を経て、その経験をもとにして名古屋いのちの電話の独自性も盛り込んで大巾な改訂に着手した。（完成は1990年4月）登録更新のための研修会：1989年3月24日127名が前年の活動をふりかえて半日の研修をうけ相談員として登録を更新された。

スーパーバイザー懇談会：12月8日養成訓練のため、また相談員の資質向上のためのスーパーバイザーとして指導して下さっている方々に集って頂き、いのちの電話のスーパービジョンのありかたについて話合った。

ケース整理係：相談電話の傾向を把握し、相談員の相談スキルの向上のために活用することを目指している。

活動した相談員：134名

訓練員会の開催：訓練委員10名。原則として毎月開催した。

（訓練委員長 中堀 仁四郎）

点滴

ネットワーク＝網細作・網の目のような組織 ネットワーキング＝情報網作り・協力体制作り
先日新聞に昨年の自殺者の数が報道されていた若者の自殺は減少しているが、老人の自殺は増加しているとのことである。

登校拒否・非行・薬物依存・出社拒否・転職・家庭内離婚・親子関係・老人の自殺等様々な問題をかえ援助を必要としている人があまりにも多い。

毎日三面記事には必ずといっていい程、自殺の記事が出ている。いのちの電話が開局されて5年、社会福祉法人の認可も受け、その責任はいよいよ重くなっている。

財務委員会報告

「いのちの電話」は人生の危機に直面して生きる希望を失っている人に対して、「電話」を通じて適切な支援を与えようとするものであり、「電話相談」がすべてボランティアの相談員の熱意によって実施されていることは夙に知られている通りであります。この運動に要する諸経費もまた篤志の方々の賛助、寄付助成により支えられていることもまた、この運動の重要な側面をあらわすものであります。

「名古屋いのちの電話」の財政基盤を確かなものにするには、開局以来の課題でありまして、この運動の恒久的な発展のためにも、社会福祉法人化することが急務でありました。そのため1988年3月以降3000万円を目標に基金募金を実施され、1989年度はこの基金募金の終結をはかるとともに、社会

1989年度 収支計算書

愛知いのちの電話協会

借 方 (支出の部)		貸 方 (収入の部)	
科 目	1989年度決算	科 目	1989年度決算
事業費支出	(11,831,210)	事業収入	(18,742,291)
701 教育・訓練費	2,232,776	501 助成金	500,000
702 広報費	226,450	502 共同募金配分金	300,000
703 調査・研究費	78,970	511 会費(法人)	355,000
704 渉外費	5,000	512 会費(個人)	
705 特別事業費		513 賛助会費(A)	1,360,000
711 職員給与	4,327,360	514 賛助会費(B)	631,000
712 貸与	1,173,165	515 賛助会費(C)	449,000
721 貸金		516 協力会費	
722 退職金	298,500	517 相談員の会費	
723 法定福利費	194,379	521 寄付金(個人)	873,580
724 福利厚生費	38,435	522 寄付金(団体)	1,501,427
725 退職引当金		523 年末募金	2,120,100
731 旅費・交通費	385,930	531 後援会(個人)	
732 通信費	583,544	532 後援会(団体)	
733 電話料	182,475	541 特別事業収入	1,125,184
734 印刷費	393,867	551 講座受講料	1,297,000
735 事務用品費	127,322	581 基金募金収入	8,230,000
736 会議費	9,288	事業外収入	(562,555)
737 郵便振替負担料	39,110	911 繰入金	
738 支払手数料	3,677	912 引当金戻入	
741 連盟負担金	231,000	913 設備資金借入収入	
742 諸会費	11,900	914 積立金戻入	
743 共益費	600,000	921 受取利息	476,960
744 水道光熱費	360,000	922 雑収入	85,595
745 消耗品費	86,364		
746 備品費			
747 宮繕費	123,723		
751 租税公課	28,713		
761 保険料	37,512		
771 雑費	51,750		
事業外支出	(8,230,973)		
821 元利償還金			
822 支払利息	973		
831 繰入金支出			
841 雑支出			
851 固定資産取得額			
861 積立金繰入			
871 基金繰入	8,230,000		
小 計	20,062,183	小 計	19,304,346
881 当期剰余金 (翌年度繰越金)	1,370,893	437 前期繰越剰余金 (前年度繰越金)	2,128,230
合 計	21,433,076	合 計	21,433,076

法人として認可を受けることが最大の課題でありました。幸い、関係の方々のご尽力により、1990年2月正式に認可を受けることが出来ました。喜ばしい限りでありました。法人化に伴い、昨年度よりの、社会福祉法人会計基準に沿う会計の整備もまた一つの重要な課題でありました。

1989年度の決算書をみますと、基金募集は、昨年3月末の1211万円に当年度823万円が加わり合計2034万円となりました。経常収支の上では賛助会費の未達成が目立ちますが、年末寄付金は例年を上回る額を得ることができました。感謝であります。実質の経常収支は赤字決算といえますが、前年度繰越金や寄付金により1,370,893円を次年度に繰越しました。次年度は法人化の利点を生かして、賛助会費、法人会費、後援費等の増強をはかることが大きな課題となりましょう。

(財務委員長 木本 精之助)

1990年度予算

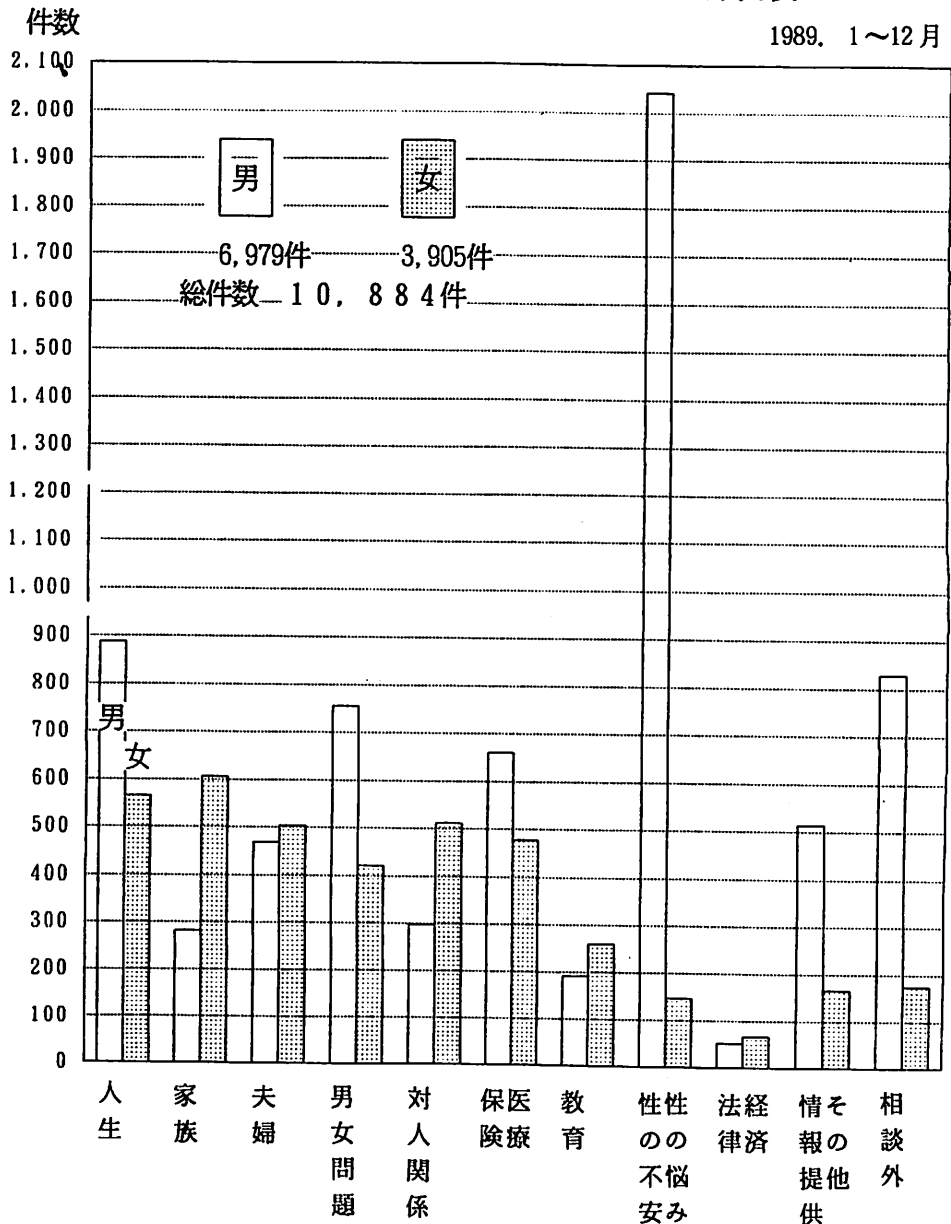
借 方 (支出の部)		貸 方 (収入の部)	
科 目	1990年度予算案	科 目	1990年度予算案
事業費支出		事業収入	
701 教育・訓練費	2,550,000	501 助成金	1,200,000
702 広報費	450,000	502 共同募金配分金	300,000
703 調査・研究費	200,000	511 会費(法人)	1,100,000
704 渉外費	30,000	512 会費(個人)	900,000
705 特別事業費	0	513 賛助会費(A)	2,850,000
711 職員給与	4,200,000	514 賛助会費(B)	1,250,000
712 貸与	1,400,000	515 賛助会費(C)	1,140,000
721 貸金	0	516 協力会費	510,000
722 退職金	0	517 相談員の会費	150,000
723 法定福利費	230,000	521 寄付金(個人)	100,000
724 福利厚生費	50,000	522 寄付金(団体)	250,000
725 退職引当金	0	523 年末募金	2,000,000
731 旅費・交通費	375,000	531 後援会(個人)	1,000,000
732 通信費	500,000	532 後援会(団体)	2,300,000
733 電話料	240,000	541 特別事業収入	1,700,000
734 印刷費	450,000	551 講座受講料	300,000
735 事務用品費	120,000	581 基金募金収入	50,000
736 会議費	15,000	事業外収入	
737 郵便振替負担料	60,000	911 繰入金	0
738 支払手数料	0	912 引当金戻入	0
741 連盟負担金	250,000	913 設備資金借入収入	0
742 諸会費	15,000	914 積立金戻入	0
743 共益費	600,000	921 受取利息	800,000
744 水道光熱費	360,000	922 雑収入	100,000
745 消耗品費	200,000		
746 備品費	150,000		
747 宮籍費	100,000		
751 租税公課	100,000		
761 保険料	85,000		
771 雑費	20,000		
事業外支出			
821 元利償還金	0		
822 支払利息	0		
831 繰入金支出	0		
841 雑支出	0		
851 固定資産取得額	250,000		
861 積立金繰入	0		
871 基金繰入	5,000,000		
小 計	18,000,000	小 計	18,000,000
881 当期剰余金 (翌年度繰越金)	0	437 前期繰越剰余金 (前年度繰越金)	0
合 計	18,000,000	合 計	18,000,000

電話相談に見る悩み 89

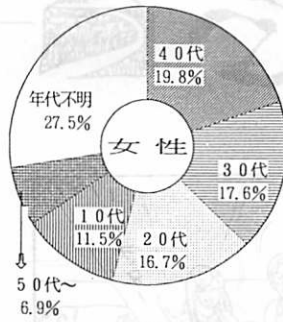
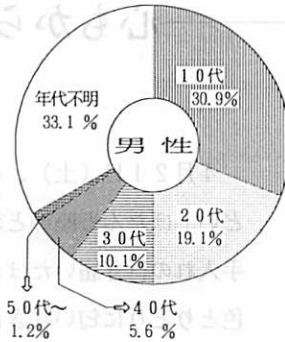
名古屋いのちの電話は、1985年7月1日の開設から、まる5年をむかえようとしています。5年間の総受信件数は52400件になりました。(90年5月1日現在)

1989年1年間に15,116件の相談電話を受信しました。その内、相談員と直接対話せずに切れてしまった「無言電話」4232件をのぞくと10,884件となり、1日あたり30件の相談電話を受信していることとなります。

相談内容男女別の相談件数



年代別の相談件数



自殺予防シンポジウム内容決まる

さる5月11日（金）、第5回シンポ実行委員会が開かれ、大会の内容がつぎのように決まりました。

1. 主催 日本自殺予防学会
名古屋いのちの電話
2. 日・時 1990年10月13日（土）
9:00～16:30
3. 会場 愛知県産業貿易会館西館・東館
4. 主題 「いのちをまもるネットワーク」
5. 日程

9:00	9:35	13:20	15:00	16:30	18:00
受付	司会者挨拶	分科会	昼食	自殺予防学会総会 全体開会挨拶 来賓挨拶	主体シンポジウム
				来賓挨拶	懇談会

6. 主題講演 「セカセカ社会を生きる」

名古屋大学教授
愛知県精神保健協会会長笠原嘉
名古屋いのちの電話理事

7. 分科会

① 青少年の危機とネットワーク
提案者 外山寛治（名古屋ダルク）

提案者 長内 宏美（愛知県警）

助言者 清水 将之（名市大）

- ② 職場の危機とネットワーク

提案者 中川 裕子（東芝三重工場）

” 交渉中

助言者 伊藤 克彦

（愛知県精神保健センター）

- ③ 家庭の危機とネットワーク

提案者 交渉中

” 交渉中

助言者 田畑 洋子（名古屋女子大）

- ④ 病苦の危機とネットワーク

提案者 天野薫（岐阜南保健所）

” 交渉中

助言者 戸田 安士（名古屋大）

- ⑤ 性の危機とネットワーク

提案者 交渉中（こころの電話）

” 交渉中（思春期相談）

助言者 林 義子（東京いのちの電話）

8. 総合シンポジウム

（司会 中堀仁四郎（南山短大））

「現代社会に生きる人々と危機・ネットワーク」

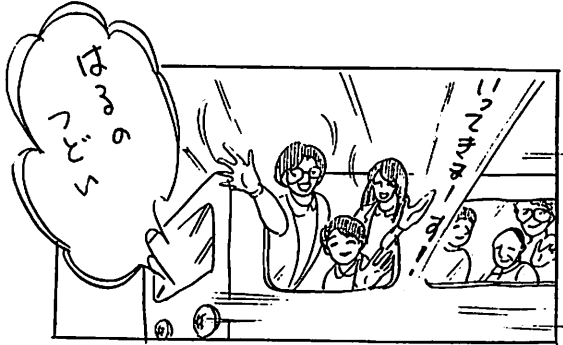


窓



春のつどい

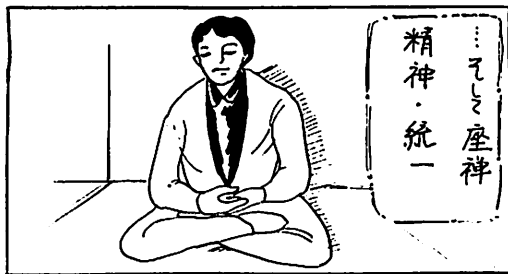
心もからだも清々しく



4月21日(土)、小牧の薬師寺で「春のつどい」ぼたん園と座禅とお茶の会が開かれました。手入れの行き届いたぼたん園は、丁度見ごろで、色とりどりに匂い咲き乱れ、花泥棒になりたいとさえ思います。

作法の説明を含め30分程の座禅を組みました。

座禅は、どっかり腰を下ろし、楽な格好で足を組み、背筋をシャンと伸ばし、腹式呼吸をします。目は半眼にして、視線を前方1メートルくらいの畳の上に落とし、精神を集中させます。時のたつのが全くわかりません。よくもまあと思うほどいろいろな雑念が浮かんでは消え、又浮かんできます。



相談員は「いのちの電話」という大きな活動を支える為にそれぞれ、ボランティアの働きは違っても、有形無形の愛に守られ、育てられていることを感じる事ができます。相談員という働きを細く長く続ける為にも、人々との出会いを深め、大切にしたいと思っています。



お 知 ら せ

いのちの電話、チャリティー公演

構成詩

「この子たちの夏」ーヒロシマ、ナガサキー

椋山学園父母懇談会

名古屋「いのちの電話」共催

椋山学園父母懇談会では、かねてより文化活動に取り組んでおりましたが、より広い視野で社会に貢献をしたいというねがいから、今回は名古屋いのちの電話のために、チャリティー公演としていただけることになりました。

記

日 時 1990年7月4日(土)午後6時より

場 所 東別院青少年会館NBNホール

会 費 500円

聖霊降臨祭オルガン・コンサート ～トランペットと共に～

と き 6月3日(日)14:00～

と ころ カトリック南山教会大聖堂
052-831-9131(昭和区南山町1)
地下鉄鶴舞線「いりなか」下車

入場料 一般1,500円学生1,000円

オルガン 吉田徳子 トランペット 竹本義明

第12回いのちの電話全国研修会栃木大会

日 時 1990年9月20日(木)～22日(土)

場 所 宇都宮市鬼怒川(日光)

主 題 「生きるよろこび」

講 演 心理劇「青い鳥を探そう」

宇都宮大学教授増野肇

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。年間1,500万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立ての課題を与えられています。

会員の皆様の旧傍のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。

法人となり寄付金の税法上優遇措置があります。

(1) 法人会費年間1口1万円以上

(2) 賛助会費(年間1口)

A 10,000万円 B 5,000円 C 3,000円

(3) 一般寄付

(4) クリスマス・年末寄付ご自由な金額で結構です

口座名社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会

理事長 相馬 信夫

銀行東海銀行大津町支店(普)477029

郵便振替口座ナゴヤ1-53758

1990年度の主な事業計画

1. 財政基盤の確率
 - ① 法人基金の積立て
 - ② 賛助会員等、支援者の増加
2. 相談事業の充実強化
 - ① 相談諸機関との連携強化
 - ② 24時間体制への対策研究
3. 相談員の養成訓練の充実
4. 広報活動の推進 広報紙充実
5. 法人の組織確立と運営の円滑化
6. ボランティア活動としての
 - ① 自主活動の推進
 - ② 他グループとの連携研修
7. 開局5周年記念行事の推進
 - ① 法人設立と併せ記念式と感謝会
 - ② 自殺防止シンポジウムの主幹開催

社会福祉法人愛知「いのちの電話」協会
名古屋いのちの電話

1990.初夏

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱 第257号

事務局 ☎052-971-5181

相談電話 ☎052-971-4343

郵便振替口座 ナゴヤ 1-53758

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

1990年6月1発行

発行人 相馬 信夫

編集人 広報委員会